

〈各教科の結果分析・指導改善のポイント〉

★小学 5・6 年生 国語

★小学 5・6 年生 算数

★中学 2 年生 国語

★中学 1・2 年生 数学

★中学 1・2 年生 英語

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。

結果概要

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点

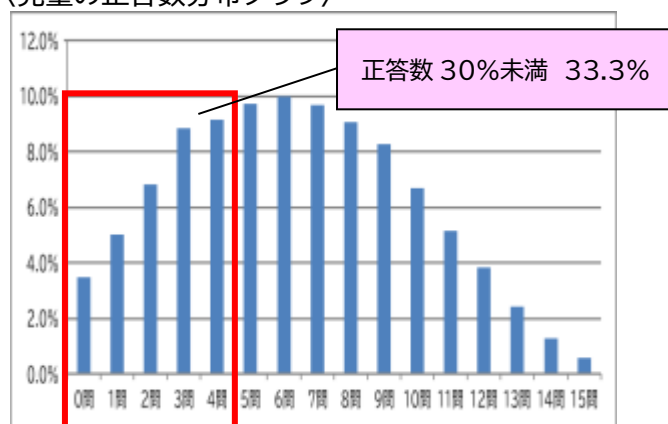
◇自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることは概ねできている。

◆物語の全体像を捉え、理解したことに基づいて自分の考えをまとめることに課題が見られる。

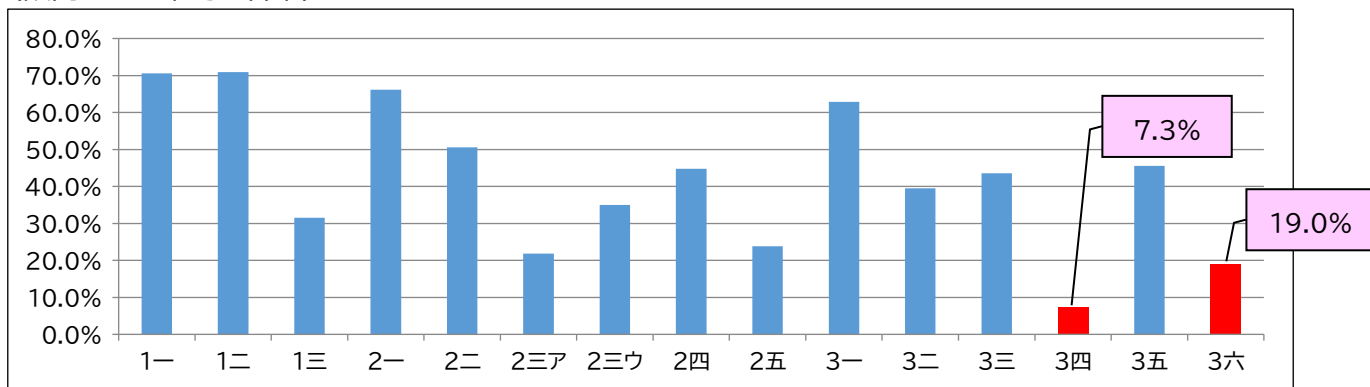
〈分類・区分別集計結果〉

	分類	区分	問題数	正答率
学習指導要領の内容	知識及び技能	言語の特徴や使いに関する事項	4 問	41.1%
		情報扱い方に関する事項	1 問	66.1%
		我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3 問	57.7%
		書くこと	2 問	37.2%
		読むこと	5 問	31.0%
評価の観点	知識・技能	知識・技能	5 問	46.1%
		思考・判断・表現	10 問	40.2%
問題形式	選択式	選択式	6 問	59.9%
		短答式	6 問	37.0%
		記述式	3 問	24.8%

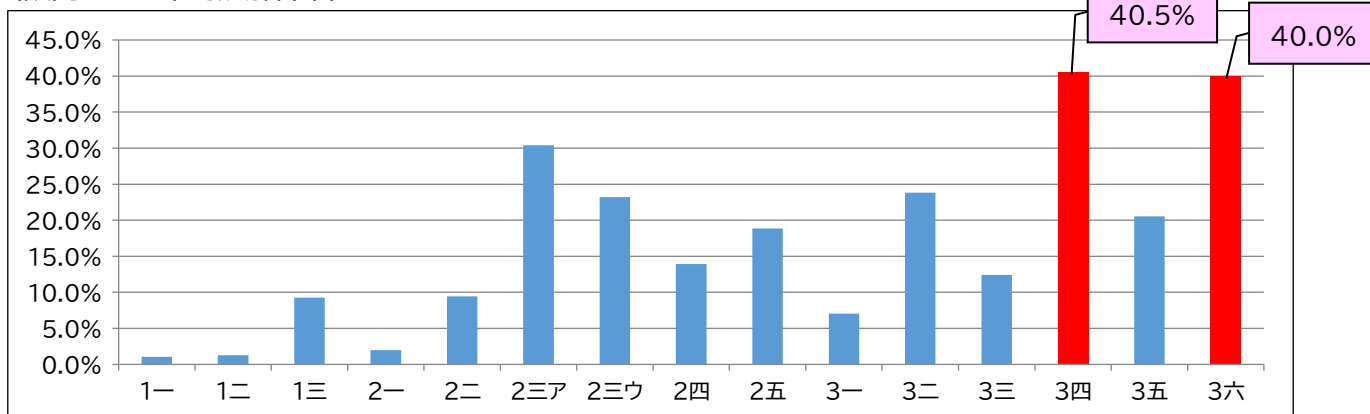
〈児童の正答数分布グラフ〉



〈設問ごとの平均正答率〉



〈設問ごとの平均無解答率〉



特に課題の見られた領域・問題と指導改善のポイント

【大問 3 四】〔C 読むこと エ〕 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

【大問 3 六】〔C 読むこと オ〕 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

具体的な設問例

【大問 3 六】

問題「このあと、物語の続きがどうなるか」について考え、考えたことと、その理由について発表する形で記述する。

【条件】

- 正しい読み方（読み手）で書くこと。
- 右の「砂川さんの問い」をもとに、「好きになる」か「愛わらない」かを考えて書くこと。
- 文章の中にえがかれた裕之またはポリーの様子をもとに、考えたこと（理由）を書くこと。
- 五十文字以上六十文字以内で書くこと。（句読点や記号も手数に数えます）

【砂川さんの問い】

このあと、裕之はポリーのことを好きになるかな？ それとも、ポリーへの気持ちには変わらなかな？

六 砂川さんは、「このあと、物語の続きがどうなるか」について考え、考えたこととその理由をみんなの前で発表することになりました。あなたが砂川さんなどのように発表しますか。次の「条件」にしたがって書きましょう。

四 — 題イ「自分の子犬」とは反対の意味で使われている裕之の気持ちが出てくる言葉と、文章の中から八文字でめくしなさい。（句読点も手数に数えます）

（ほくがほしかつたのは、こんな大きな、お古の犬じゃなかったんだ）

〈正答例〉

このあと裕之はポリーのことを好きになると思います。なぜなら、ポリーはもう裕之になついているからです。

〈誤答例〉

①このあと裕之はポリーのことを好きになると思います。②なぜなら、ポリーはリタイア犬だからです。

誤答例の分析と課題

①登場人物の心情の変容を物語の全体像から捉えることはできているが、②その根拠となる叙述を、整合性を図りながら読み取り、自分の考えを形成することができなかったと考えられる。

※無解答の児童は、登場人物の行動や会話、様子など、複数の叙述を結び付けて読んだり、自分の既有的知識や経験と結びつけて読んだりすることができていないと考えられる。

指導改善のポイント【授業例】

ポイント 1

自分と重ねて読むことへの習慣化と価値付けを！

○文章を読んで理解したことと既有的知識や体験などを結び付けて考えていることを認め、価値付けることが大切です。

ポイント 2

児童が叙述の中で着目している言葉の把握を！

○理解したことと既有的知識や体験などを結び付けて考えることが難しい児童には、着目した語句を確かめたり、その語句に着目した理由を問いかけたりして自分の考えを表現できるように指導することが大切です。

ポイント 3

知識・技能の指導事項と一体的な学習指導を！

○考えをまとめることが難しい児童には、「なぜなら」、「～から」など情報と情報との関係を表す語句や「思う」、「考える」のように思考そのものに関わる語句を例示するなど、〔知識及び技能〕の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」と関連させて、考えをまとめることができるように指導することが大切です。

【授業例】 大問 3 を例にした授業展開

自分だったら、なつてくれている犬のことを嫌いにはならないと思うな～。

「自分だったら」という考え方がいねそれを文章中の言葉や文の後に加えるようにして、まとめてみよう。「なぜなら」、「～から」などの言葉を使うと、文章を読んで考えたこととつなぐことができるね。

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。

結果概要

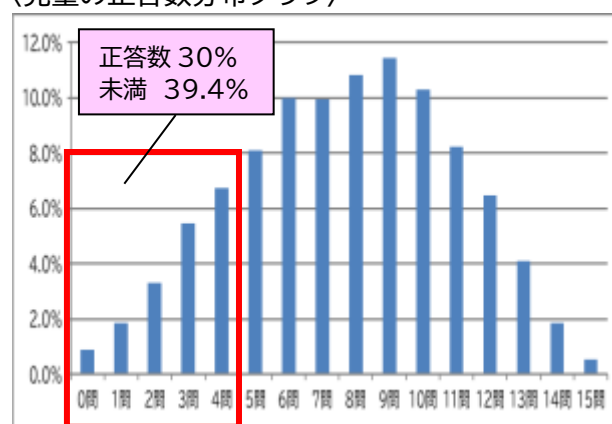
◇…比較的できている点 ◆…課題のある点

◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することは概ねできている。
◆目的に応じて、事実と感想、意見とを区別して文章に合う形で自分の考えが伝わるよう、書き表し方を工夫することに課題が見られる。

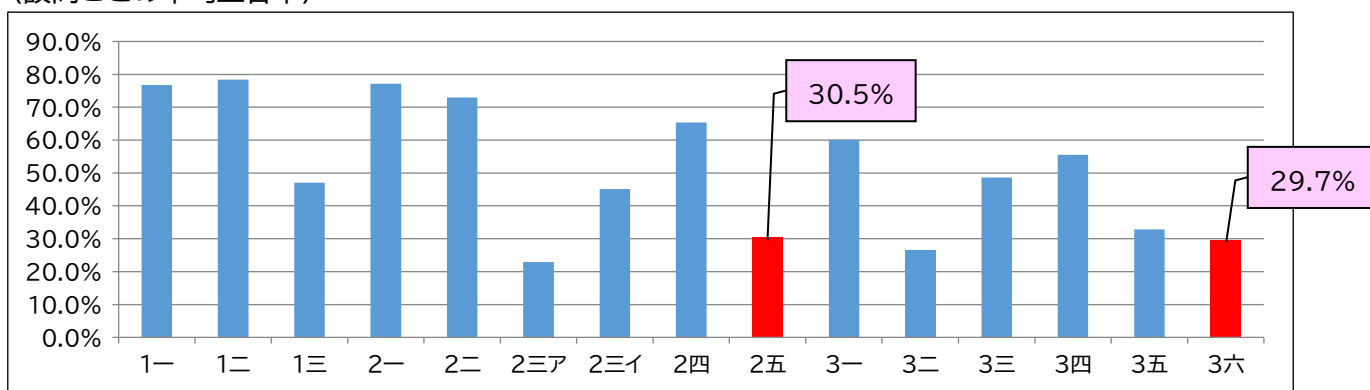
〈分類・区分別集計結果〉

	分類	区分	問題数	正答率
学習指導要領の内容	知識及び技能	言語の特徴や使いに関する事項	4 問	48.4%
		情報扱い方に関する事項	1 問	77.2%
		我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3 問	67.4%
		書くこと	2 問	51.7%
		読むこと	5 問	38.7%
評価の観点	知識・技能	知識・技能	5 問	54.1%
		思考・判断・表現	10 問	49.9%
問題形式	選択式	選択式	6 問	64.1%
		短答式	6 問	48.9%
		記述式	3 問	35.8%

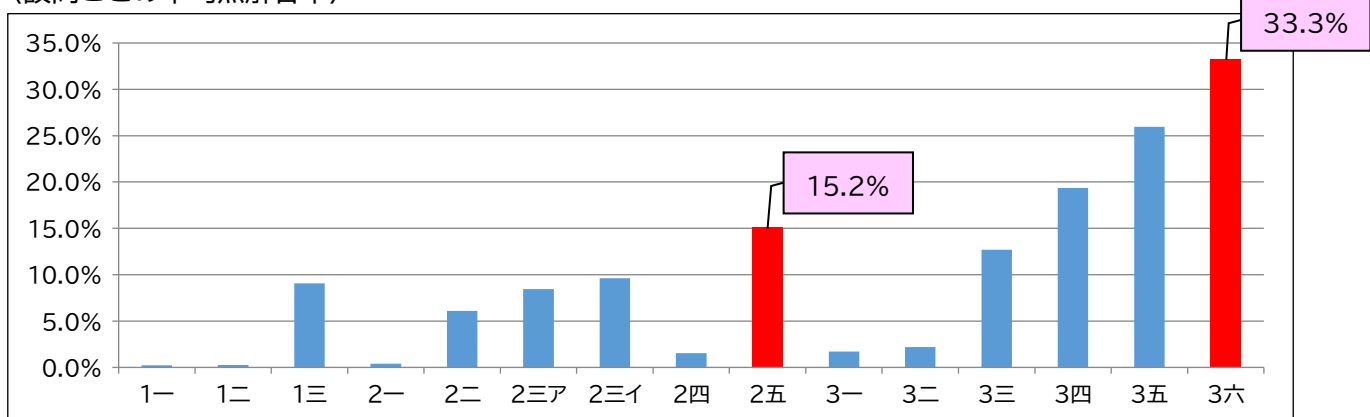
〈児童の正答数分布グラフ〉



〈設問ごとの平均正答率〉



〈設問ごとの平均無解答率〉



特に課題の見られた領域・問題と指導改善のポイント

【大問 2 五】【B 書くこと ウ】 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書き、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【大問 3 六】【C 読むこと オ】 指導改善に関しては、小学校 5 年生国語の指導改善のポイントを参照する。

具体的な設問例

【大問 2 五】

問題 【調べたことをまとめたメモ】をもとに、【文章の下書き】の B の部分で、「琉球びんがたのどのような特徴をどうやって広めたいか」について、条件にしたがって書く。

【文章の下書き】

琉球びんがたについて

琉球びんがたとは、沖縄の伝統的な染物です。「びん」は漢字で「紅」と書き、赤色だけでなく様々な色のことです。「がた」は「型」で、模様のことです。琉球びんがたの持ちようである「 」と、沖縄の自然などをえがいた独特な模様が、「びんがた」という名前の意味そのままなのだとか知り、おどろきました。

琉球びんがたには、職人の技とこだわりが詰まっています。私がいちばん「かんしん」をもったのは、「 」という技です。これは、小刀で型紙に模様をほるとき、小刀の先を上下につくように動かしながらほる技のことです。そのようにほると、「 」のある様になるのだそうです。いつか工ばうを習って、職人さんに、他の技やこだわりについても 聞きたいと思いました。

私は、琉球びんがたをもっと多くの人に知ってほしいです。

【調べたことをまとめたメモ】

- 琉球びんがた ……沖縄の伝統工芸品、染物。
- ・「びん」は「紅」、色や染料という意味。→色あざやかさ。
- ・「がた」は「型」、模様という意味。→独特の南国模様、沖縄の自然などをえがく。
- 職人の技、こだわり
- ・ひとつの作品を仕上げるまでに、たくさんの工程がある。
- ・ひとつひとつ手作業なので、全く同じものが存在しない。
- ・「 」…上下につくように動かしながらほる。やわらかく、やさしい線になる。
- ・「 」…模様を中心にからばかしを入れ、立体感を引き出す。

〈正答例〉

琉球びんがたは職人がひとつひとつ手作業で作っているの
で、職人のこだわりを周りの人
に伝えることで広めたいです。

〈誤答例〉

- ①琉球びんがたは職人がひとつひとつ手作業で作っていて、
- ②一つの作品を仕上げるまでに、たくさんの工程があります。

誤答例の分析と課題

- ①琉球紅型の特徴は、書いているが、②どのように広めたいかということは書かれていない。「紅型の特徴を広める」という文章を書く目的を捉えられなかった児童がいたと考えられる。
※無解答の児童は「調べたこと」から言葉や文を取り上げて書くことや、紅型の特徴を広める具体的な方法を自分の考えとしてもつことができなかったと考えられる。

指導改善のポイント【授業例】

ポイント 1

書く目的の明確化と客観的な事実の裏付けを！

- 目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くためには、書く目的や意図を明確にすることが大切です。その上で、事実を客観的に捉えたり、自分の考えが客観的な事実の裏付けられているかを判断したりしながら、書き表し方を工夫することが大切です。

ポイント 2

文章全体に一貫性があるか、事実と考えを混同していないかを確認する学び合いの設定を！

- 取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているか、友達同士で書いた文章を読み合って確認したり、児童が用いた書きぶりを教師が価値付けたりすることが大切です。その上で、学級全体で整合性のある書き表し方を複数取り上げて、児童が自分の文章のよさを生かし、書きたいことに合う方法を考えられるようにすることが大切です。

ポイント 3

児童個々の「書き表したい」内容や表現の把握を！

【授業例】

ぼくは、いくつかある紅型の特徴を「様々な」という言葉でまとめていたので、具体的に職人の技を示す事例を書くといいと助言をもらったよ！

私は「例えば」という言葉を入れて、色鮮やかな南国模様を紅型の具体例に挙げて、実際に身に着けることで広めたいと考えたよ！

二人とも異なる視点ですが、調べたことの実事から具体例を挙げることで自分の伝えたいことを書き表そうとしていますね！

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という**数学的活動を行う文脈**を重視した。

結果概要

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点

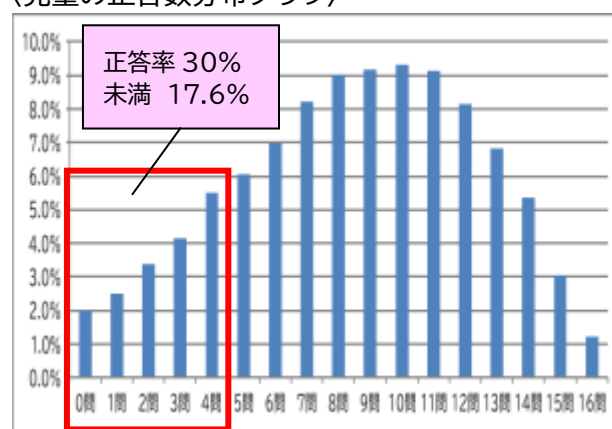
◇基礎的な計算問題や基本的な図形の性質及びグラフの読み取りは比較的できている。

◆単位分数をもとにした数の大きさや、複数の情報を組み合わせて論理的に考察することに課題が見られる。

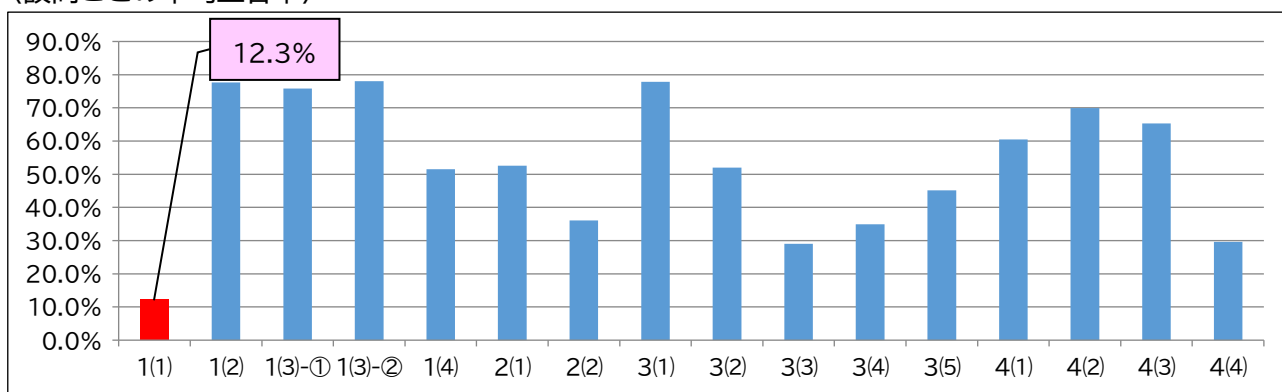
〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	問題数	正答率
学習指導要領の領域	数と計算	5 問	59.1%
	図形	5 問	47.8%
	測定/変化と関係	2 問	44.3%
	データの活用	4 問	56.3%
評価の観点	知識・技能	6 問	56.8%
	思考・判断・表現	10 問	50.7%
問題形式	選択式	4 問	63.1%
	短答式	8 問	43.4%
	記述式	(5 問)	57.0%

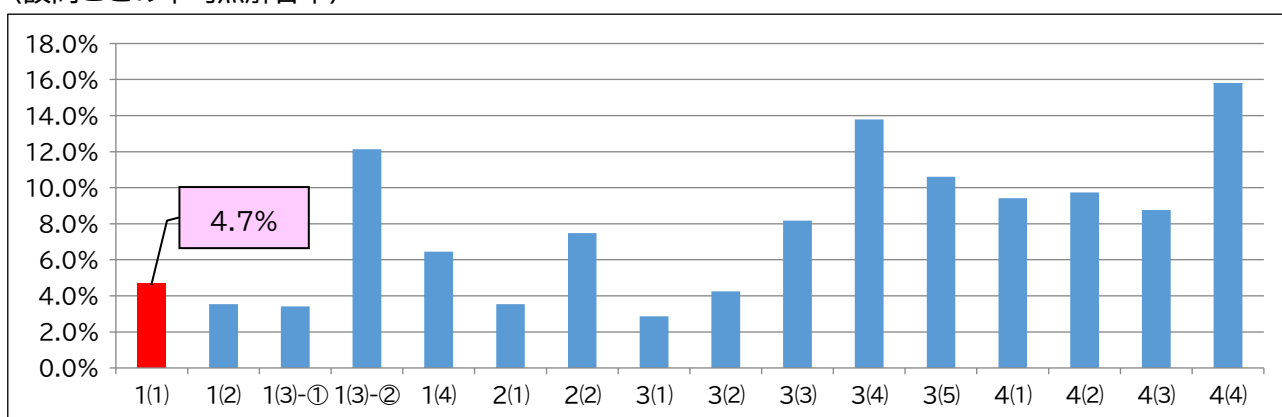
〈児童の正答数分布グラフ〉



〈設問ごとの平均正答率〉



〈設問ごとの平均無解答率〉



特に課題の見られた領域・問題と指導改善のポイント

〔第3学年 A 数と計算 (6)ア(イ)〕 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。

【趣旨】 もとにする大きさを等分したいいくつかを表すものが分数であり、その大きさはもとにする量によって変わることが理解できているかどうかをみる。

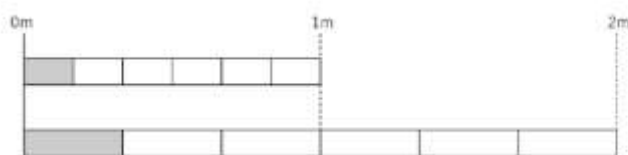
具体的な設問例

【大問 1(1)】

問題 2mのひもを6等分した1つ分の長さを求める。

※ $\frac{1}{6}$ であることと $\frac{2}{6}$ mのちがいが理解できているかどうかを問う。

(1) エイサーで使う1mと2mのひもを買いました。このひもをそれぞれ6等分します。2mのひもを6等分した1つ分の長さは何mですか。分数で答えましょう。



〈正答例〉 $\frac{1}{3}$ m

〈誤答例〉 $\frac{1}{6}$ m

誤答例の分析と課題

- ①数直線上の2mを全体の1とみて、それを6等分されていると捉え1目盛りである単位分数を $\frac{1}{6}$ と考えている。
- ②分数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目することに課題がある。

指導改善のポイント【授業例】

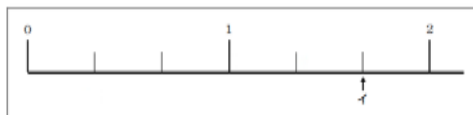
数直線上の目盛りが表す数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めることができるようにする。

- 数直線上の目盛りが表す数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めることができるようにすることが重要である。
- 指導に当たっては、例えば、右のように数直線上の目盛りが表す数を分数で表す活動が考えられる。その際、0から1までが何等分されているのかに着目して、単位分数を捉えることができるようにすることが大切である。その上で、他の目盛りが表す分数を単位分数の幾つ分として考えることができるようにすることも大切である。
- 0から2までが6等分されているため、単位分数を $\frac{1}{6}$ と捉え $\frac{5}{6}$ を $\frac{5}{6}$ と誤って捉えた場合には、単位分数は0から1までが何等分されているのかで決まることを確認し、一目盛りが $\frac{1}{3}$ になっていることから、 $\frac{1}{3}$ の5個分であることに気付くことができるようにすることが大切である。

※令和7年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例より引用

【授業例】

問題 イが示す分数を答えましょう。



この数直線は6等分されているので、 $\frac{5}{6}$ です。



友達は0からどこまでを6等分したと考えたのでしょうか。



友達は0から2までを6等分して考えたと思います。



分数は0からどこまでを何等分して考えたらいいのでしょうか。
(単位分数の考えに気づかせる)



思い出しました。0から1までが何等分されているかを考えて、一目盛りの大きさを調べます。数直線で説明してみます。

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という**数学的活動を行う文脈**を重視した。

結果概要

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点

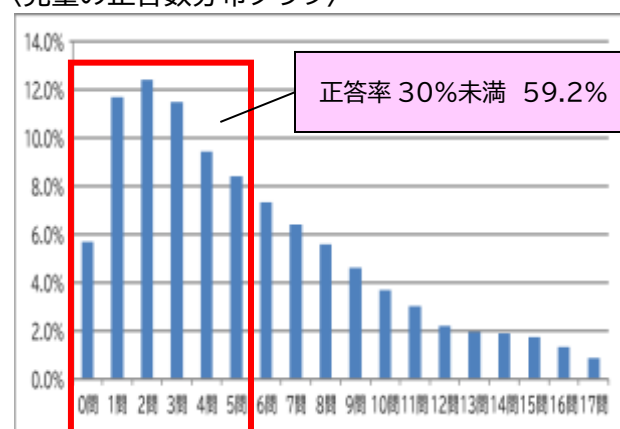
◇基本的な計算や資料の読み取りなど、手続きが明確な問題には一定程度対応できている。

◆数量の変化や関係を段階的に捉え、考えを整理・説明することを求められる問題に課題がある。

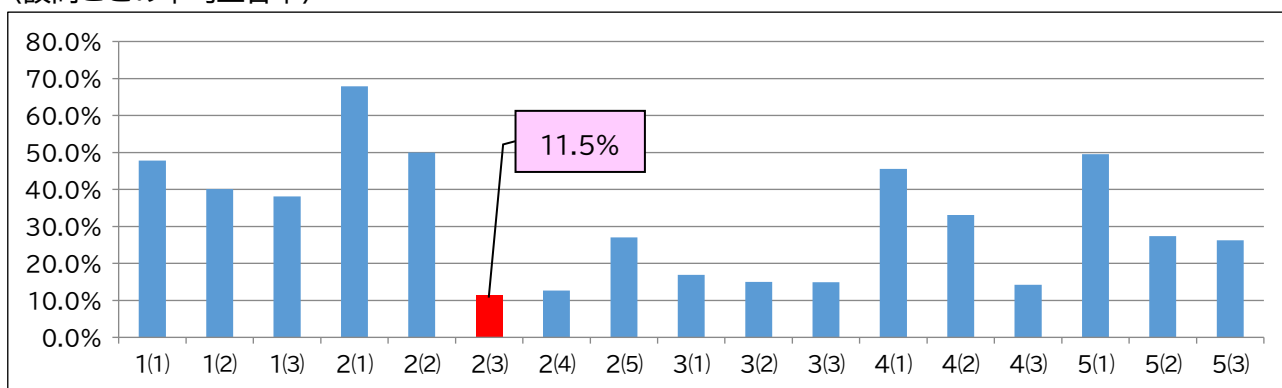
〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	問題数	正答率
学習指導要領の領域	数と計算	5 問	36.5%
	図形	(6 問)	34.9%
	測定/変化と関係	3 問	15.6%
	データの活用	4 問	34.4%
評価の観点	知識・技能	9 問	38.4%
	思考・判断・表現	8 問	24.0%
問題形式	選択式	5 問	48.8%
	短答式	9 問	25.4%
	記述式	3 問	21.7%

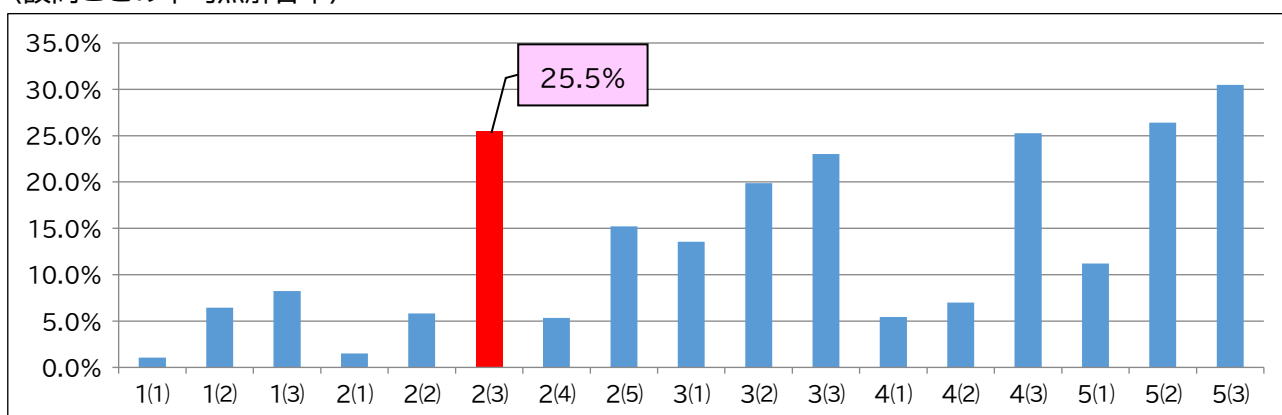
〈児童の正答数分布グラフ〉



〈設問ごとの平均正答率〉



〈設問ごとの平均無解答率〉



特に課題の見られた領域・問題と指導改善のポイント

〔第6学年 B 図形 (4)イ(ア)〕 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

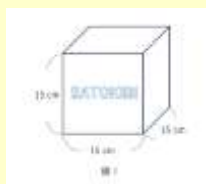
【趣旨】 体積の公式を逆に利用し、同じ体積の別の立体体から、直方体のある辺の長さを求めることができるかどうかをみる。

具体的な設問例

【大問 2(3)】

問題 立方体に入っている中身を、同じ体積のまま直方体の容器に移し替えたときの直方体の高さを求める。

図1の立方体の箱からすべての肥料を図2の直方体の箱にすきまなく移しかえるとき、図2の直方体の箱には何cmのところまで肥料が入るかを求める方法を説明して、答えも求めましょう。



〈正答例〉

図1の体積は $15 \times 15 \times 15 = 3375 \text{ cm}^3$ となる。図2の直方体の底面積は $10 \times 10 = 100 \text{ cm}^2$ です。肥料の体積は 3375 cm^3 なので、 $3375 \div 100 = 33.75 \text{ cm}$ まで肥料が入る。

〈誤答例〉

● 直方体全体の体積 (4000 cm^3) と立方体の体積 (3375 cm^3) の差である 625 を求めたところで思考が止まり、その値をどのように用いて直方体の高さを求めるかまで整理できていない。

誤答例の分析と課題

- ① 問題の高さに着目できず、解決の見通しが持てていないため、どのように解決すればよいか次の手順につなげることができない。
- ② 一つの計算や操作で完結させようとする傾向が強く、複数の量や要素を関連付けながら捉える経験が不足している。

指導改善のポイント【授業例】

① 図形の構成要素(底面積・高さ)に着目させる指導

直方体を、底面積と高さという図形の構成要素に分けて捉え、体積がそれらの関係で決まることを理解させる。立体を「同じ底面が何段積み重なってできているか」という構造として捉えさせることが重要。

② 「変わらない量」と「変わる部分」を明確にする指導

立方体から直方体へ移し替えても変わらない量は体積であることを確認し、形が変わることによって変わる部分は底面積や高さであることを整理する。これにより、体積を共通する量として位置付け、次の処理に生かす見通しをもたせる。

③ 図・式・言葉を往還させ、段階的な問題解決を促す指導

「変わらない量は何か」「変わるのはどこか」を意識させながら、図への書き込みや式の意味の言語化を通して、図・式・言葉を往還させる。得られた量を次の処理に生かし、段階的に問題解決を進める力を育成する。

【授業例】

① 変わらない量と変わる部分の整理

立方体 ($15 \times 15 \times 15$) から直方体 (底面積 10×10) へ中身を移し替える問題では、形が変わっても変わらない量は体積であることを明確にし、変わるのは底面積や高さであることを整理する。

② 図に書き込みながら構成要素を確認

直方体の底面にマスを書き込み「1段(底面積)にどれくらい入るか」を視覚化する。

・中身の体積 $\rightarrow 3375 \text{ cm}^3$

・一段分の広さ(底面積) $\rightarrow 100 \text{ cm}^2$

③ 公式の意味理解と活用

体積は底面積と高さで決まることを確認する(体積 = 底面積 \times 高さ)。

体積を底面積で分けることで、高さを求めることができることを理解する。

$$3375 \div 100 = 33.75$$

高さ: 33.75 cm